

カリキュラムの授業科目数適正化のために

上月 翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師）

講師略歴

専門は高等教育論、文芸学。日本学術振興会特別研究員（DC2）、大阪産業大学等非常勤講師、大阪大学大学院文学研究科助教等を経て、2023 年より現職。学内外における FD 活動の企画、実施などにかかわるほか、大学教育におけるカリキュラムについて調査研究を行う。2022 年に出版した『カリキュラムの編成』（分担執筆）において、授業科目数削減についての章を担当。

プログラム概要

授業科目数の適正化は今日多くの大学で重要な論点となっています。人的、物的な資源の制約の中で、学生の学習を促すカリキュラムを実転するためには、カリキュラムの授業科目数を適正なものにすることが大切です。本プログラムはカリキュラムを数で捉え、適正な授業科目数とは何か、そして授業科目数の適正化に向けて何を行うべきかを考えていきたいと思います。

まず、授業科目数の適正化に関するさまざまな議論を紹介します。次に授業科目数の適正化とは具体的に何を意味するのかを考えたいと思います。そして、授業科目数を適正なものにするためのさまざまな具体的な手法を学習します。また学内で議論を進めるうえでの留意点について考えます。合意形成を進めるために何ができるかを議論を通じて検討していきます。最後には自大学の文脈においてどのように授業科目数の適正化を進めていけるかを考える時間を持ちたいと思います。

準備物・事前課題

- ・事前に配信する動画をご視聴ください。
- ・ご自身がかわるカリキュラムにおける授業科目数を調べてみてください。
- ・『カリキュラムの編成』（玉川大学出版部、2022 年）の 7 章「授業科目数を削減する」をお読みください。

主な受講対象者

カリキュラムの編成に携わる教職員はもちろんですが、本テーマに関心のある方はぜひご参加ください。

到達目標

1. 授業科目数の適正化の背景や意義を説明することができる。
2. さまざまな数字を通じて自大学のカリキュラムを分析することができる。
3. 自大学における授業科目数の適正化を進めるための論点を挙げるができる。
4. 授業科目数の適正化のために行うべきことを具体的に挙げるができる。